

北海道の元気! NPO訪問

39 NPO法人 北海道職人義塾大スクール

文・加藤知美

小樽の職人技術とものづくり精神を伝える 全国ネットワークによる連携・交流で成果

◇ 難しさ増す職人技術の伝承、後継者育成に切迫感

小樽市の中心部、花園地区のグリーンロードの近くに、昔ながらの和菓子屋さんなど情緒あるたずまいが並ぶ通りに面して、「小樽職人の会・おたるすきる」の看板をみつけた。「NPO法人北海道職人義塾大スクール」の体験学習事業部の事務所だ。印判や鋳物の飾り、家紋を染め上げた布地など職人の手業による製作物がディスプレイされ

ている。奥には事務スペースがあり、旅行代理店や学校などからの体験学習の問い合わせに応じている。

小樽は明治・大正と北海道経済の中心都市であり、幅広く産業が発展をとり、多種多様な資材が生産され流通していた。一九六〇年代以降は、産業構造の変化や札幌の発展により港町小樽の活気は次第に衰え、近年は観光地としての人気が全国区となっている。そうしたなか、小樽の職人による技術の伝統を受け継ぎ、ものづくりの精神を伝えていこうと、一九九二年に「小樽職人の会」が結成された。染め物、表具、竹細工、花火といった様々な業種の職人が集まり、情報交換や後継者育成を目指した。伝統技術が何代にも渡って受け継がれている本州などでは、業種別に職人の団体があるのが普通だが、小樽のような異業種の団体は珍しかった。さらに、一九九九年には職人の交流や技術の研鑽を目指し「全国職人学会」を立ち上げ、「小樽職人の会」が事務局を担い、ネットワークは全国に広がっている。情報交換や交流を目的とした年一回の学会は、小樽を振り出しに秋田、静岡、沖縄など全国各地で持ち回りで開催されている。

一方、「小樽職人の会」の活動を通じて、職人の子弟を本格的に育成しようという気運が高ま

り、二〇〇〇年に「NPO法人北海道職人義塾大スクール」を立ち上げることでなされた。職人として働きたいという若者を発掘し、体系的に知識や技術を教育する場をつくる



家具屋さんの木工技術で写真立てづくりを体験

ことで後継者を育てることを目指したのだった。「小樽職人の会」結成から年月が経ち、メンバーの高齢化が進んでいたため、職人が廃業したり亡くなったりすれば、小樽ではその技術がなくなるという業種もあり、危機感が高まっていた。

大スクールは文部科学省の認可を受けた学校ではないが、伝統的生活文化を支える職人の後継者を育成するために、義務教育を終えた青年を対象にカリキュラムを組んだ。もともと、職人の仕事は、一般的な会社勤めとは給与と制度や勤務時間、休日などが大きく異なるため、職人としてひとり立ちするための教育は困難であった。親方の家に住み込みで職業技術を習得するが賃金は支払われないという伝統的な徒弟制度に不安をおぼえる若者が多かった。そのため現在は、職人と職人志望者の仲立ちをして、ものづくりを学ぶ人を支援する活動に切り替えられている。

◇ 多くの子どもたちを集める製作体験

現在、大学校の活動の中心に据えられているのは、製作体験事業である。ものづくりの技術子どもたちに目の当たりにしてもらいたいという考えで、小樽市内の小学校などにボランティアで出前授業をしたのがはじまりだ。現在は、札幌圏を中心とした小中学生が修学旅行や宿泊研修などで小樽に滞在して製作体験をするケースがほとんどで、年間一万人近くの子どもたちを受け入れている。浮球の網掛け、金箔貼り、鋳物で作る錫小物、家紋の刷り込み、落款印、上生菓子など一六業種の職人が指導する。それぞれに職人のこだわりが活かされているが、五十数十名ずつのグループに分かれて希望のメニューを体験する仕組みだ。体験時間は約九〇分で、料金は一八〇〇円。三割をNPOの事務費とし、体験を指導した職人が残



自分だけのオリジナルの落款印をつくる体験。子どもたちとの会話も弾む。

りを受け取る。製作体験は、大学校の自主事業の収入の柱となっており。ゆくは、この収益を職人後継者育成の資金とし、見習い期間中の生

活をサポートする予定だ。

また、二〇一二年度については小樽市による「職人のまち」小樽の伝統文化・技術継承支援事業（緊急雇用創出事業）の委託を受けて三名のスタッフが常勤し、製作体験の旅行会社へのプロモートや職人が製作した工芸品の販路開拓支援を行っている。

そのスタッフの一人、中村ゆかりさんは、実は職人志望の若者だ。ものづくりを仕事にしたいと漠然と考えていた折、たまたま札幌から遊びに来た小樽の土産物店でのやりとりで職人義塾大スクールを知り、職人の門を叩いた。日頃から大量消費社会に疑問を感じ、物を大事にする暮らしや、仕事と生活が一体となったライフスタイルを考えたら職人を目指していたというわけだ。製作体験の仕事をすると傍ら、様々な業種の職人ワザを間近で見ているが、どれも新鮮に映るといふ。いずれは職人としての技術を習得して仕事にしたいと考えている。

◇ 製作体験と全国ネットワークを基盤に事業拡大を図る

約二〇年前の「小樽職人の会」設立時からのメンバーでもある松田和久さんは、現在、体験学習事業部の責任者を務めている。職人の高齢化への危機感は強く、後継者育成の仕組みを模索している。そうしたなかでも、全国職人学会のネットワークがあることにより、例えば職人が使う道具の製作者の情報のやりとりがスムーズにできたり、小樽ではできない仕事も道外の職人を紹介できるよ

うになるなどの成果を実感している。

大スクールは体験学習を中核に、職人の技術やネットワークをベースにした事業を広げているところである。二〇一二年一〇月にはキッズベンチャー事業を実施し、ものづくりだけではなく営業、販売も含めた体験を通じて子どもたちの起業家精神を養う。また、キャリア教育民間コーディネーター育成事業も実施している。経済産業省の事業を委託したり補助を受ける機会も多く、効率よく事業を発展させてきているが、製作体験を柱とした安定的な収支構造を模索していることである。



理事で体験学習事業部を率いる松田和久さん(右)と職人志望の中村ゆかりさん

◆ NPO法人北海道職人義塾大スクール
所在地 小樽市花園3丁目16-13
(体験学習事業部)

TEL 01244-6411003
WEB <http://otaruskill.a.la9.jp/>